

第2回庄内町立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時：平成28年11月30日（水）18時30分～20時30分
- 2 開催場所：庄内町立図書館 2階自習室
- 3 出席委員：小野寺姫、小野寺博、阿部真一、高梨道明、仲條一志
- 4 欠席委員：遠田由美子、館林由美子
- 5 事務局：社会教育課長、図書館長、係長、主任

進行：主任

1 開会：館長

本年度も残すところ1/3となった。皆さまのご助言のもと日々努力はしているものの、思うように来館者が伸びてこないことに忸怩たる思いはあるが、今後もなお一層頑張っていきたい。

本日は、庄内町立図書館基本構想ということで、新しい図書館に向け、ご審議・ご助言賜りたい。

2 あいさつ

○委員長

最近、新聞等で図書館のイベントの掲載が目につくが、多分に新しい図書館に関するものであり、各館のご努力の表れかと思う。庄内町立図書館も今夏新聞報道され、うれしく感じた。

図書館基本構想については、10年ほど前から携わっていたものとしては、その頃の考えが今の時代に合っているのか疑問に感じるところもある。皆さんには、今の立場として、また、今から予想できる未来を考えながら、ご審議いただきたい。

○社会教育課長

家で過ごす時間が長くなるこの季節、図書館に足を運びたいと思うような雰囲気づくりをして欲しい。

予算要求の時期となったが、図書館の整備について、どのように調整しながら実現させていくのが難しいところである。ご提示した基本構想については不十分な部分もあろうかと思うが、運営面や予算面を考慮しながら作成した。是非皆さんのご意見をいただきたい。

3 協議事項

(1)耐震診断の結果および庄内町立図書館基本構想について

《事務局説明》

既存の建物は耐震基準を満たしている、との結果となった。その結果を待ちつつ、並行しての基本構想作成であったが、増築・改築いずれかは決定していない中、あらゆる可能性を想定しながらの策定となった。この基本構想をフィルターとして、今後設計等の対応へと進んでいきたい。

また、先般開催された、平成28年度地区別研修（北日本）に参加させていただいたことにより、最新の図書館をめぐる状況や国の方針等を学ぶことができた。その際の情報提供も含めながら説明したい。

… 以下「庄内町立図書館基本構想（案）」の確認と補足説明 …

（委員長）全て関連性があるようなので、思いついたところがあれば意見をお願いしたい。

（委員）冒頭に、建物の耐震性あり、との報告を受けたが、新しく建てるのか。それとも増築するのか。

（事務局）増築か改築かまだ最終判断はされていない。

（社会教育課長）建物の耐震性はあるので、補強の必要はない。その上で、耐震調査した業者に、増築・

改築の可能性を検討してもらっているところである。その結果をもとに、判断していきたい。

今回検討してもらった基本構想は、業者が増築・改築を検討する上で、どういう図書館を目指すのか、ものさしとなり、根本的な考え方となる。

(委員) この建物を利用するとなると、先ほど説明された内容が大幅に変わるのではないかと。例えば、今ある段差などはどうするのか。現在の約 630 m²から 1,000~1,300 m²に面積を拡大するとしても、カフェコーナーは設置できるのか。玄関の大幅な変更はできるのか。全くの新規の建物であればいいが、増築では内容はかなり制限されるのではないかと。

(事務局) 各部屋の特徴、間取りを考えた際には、増築となった場合でも、最低限必要な機能は盛り込んだつもりである。増築でも、この機能は展開できると想定している。

(委員) 館内を見渡せるカウンターを想定しているようだが、例えば、現在新聞・雑誌が置いてあるホールなどは、階段もあり見渡しは難しいのではないかと。

(事務局) カウンターの位置は、既設の場所より大幅に変更する必要があると思う。設計の段階で、専門家に是非配慮いただきたいブースである。現場としては、カウンター機能は増築であっても譲歩できない部分である。

(社会教育課長) 完全に、全て見渡せるカウンターの設置というのは無理かと思う。例えば、新しい市立米沢図書館でも、バックヤードも含め、全てのエリアを見渡せてはいない。意識として、ある程度見渡せる図書館、ということである。

またカフェコーナーに関しては、喫茶店形式のような接客がある運営ではなく、コストパフォーマンス的には、挽きたてのコーヒーをはじめ、様々なメニューが入った自動販売機+椅子やテーブル、といった形態を考えている。増築か改修かで判断は変わってくると思うが、接客を伴うような形は、面積的に無理がある。このカフェコーナーについては、利用者から要望がある、ということで基本構想の中に入れていく。

(委員長) 新築であろうが増築であろうが、現状ではこれだけ不便なところがあるのだ、という理由付けが、今回の基本構想の前段部分に記載されているのだと思う。新築であればありがたいが、増築・改築であっても、30・40年前と異なり、現状では今の図書館機能が十分には果たせない、そういうことが伝わる表現になっているか、また、内容が分からないところはないか。

(委員) 職員としても、図書館協議会委員としてもずっと関わってきた立場としては、大変苦労してここまで積み上げてきたものであるし、今回提示された内容は必要だと思う。

課長も指摘したとおり、予算の調整や制約もあると思うので、既存建物の増改修をしっかりとやるということが重要なのではないかと。増改修を基本とし、この内容を創意工夫して実現して欲しい。

今後は、いかに上手くこの内容を設計に取り入れてもらうか、話を進めて欲しい。

(委員長) 基本コンセプト内「広がる図書館」の中で、「地域が抱える課題を解決するための支援」とは、どういったことを想定しているのか。情報提供については「頼れる図書館」の中にも入ってくるだろうと思うが、「広がる図書館」というのは、新しい観点かと思う。具体的にはどういったことなのか。

(事務局) これまで関わってこなかった団体や異業種の方々とも、図書館が積極的に連携し、支援していくものである。例えば、今年度は商店街の方からお声かけいただき、「おもしえちやあまるめ ShJw 店街」に、図書館ブースを設置させてもらった。実際、その場で本を借りる方は少なかったが、商店街や中心市街地活性化のため、図書館として参加することができた。

今後は、これまで手を携えてこなかった商店街や企業の皆さんとも、様々な地域課題について、図書館内のスペースや資料・情報を活用しながら、研修会を開催するなどの取組みが考えられる。実際、全国的には、そういった事例が数多く展開されている。その結果、例えば雇用の確保や女性の社会進

出、医療相談支援などにつながっていくと考える。

(委員長) ただ図書館で待っているのではなく、出向いていく図書館、ということだろうか。

(事務局) フットワークがきいた、地域に出向いていく図書館を目指している。また、今後は図書館を会場にしての様々な講習会の開催なども考えられる。

(委員) 基本コンセプト内の「頼れる図書館」の中に、大きく「レファレンスサービス」と出ているが、後段の「職員体制について」のところで、「正職員・一般職非常勤職員等として十分な人員確保が求められる」とされており、司書や学芸員といったマンパワーが非常に重要となってくる。

今の行政は、人員は減らされる傾向にあると思うが、そのような中、本当にサービスを実現するためには、司書による本の案内や、情報提供ができることが重要となってくる。建物を建てるだけでなく、そういった人材を確保する、育てることも非常に重要となってくる訳だが、そのあたりの人員確保の見通しや考え方はどうなっているのか。実際どれくらいの人員配置を考えているのか。

(事務局) 有資格者の確保は絶対的に求められるところである。具体的な人数までは、基本構想の中では申し述べることはできないが、専門的なスキルを持った有資格者の重要性という、本町ではこれまであまり表立って強調してこなかった部分を、今回の基本構想ではあえて盛り込んだところである。正職員、一般職非常勤職員と、立場は異なってくるかもしれないが、きちんと専門分野を学び、スキルがある人が前提となる。

一方、レファレンスサービスの実践を通して、司書は地域の人に育てられるものであり、学生時代に資格を修得していても、必ずしも即戦力となるものではない。レファレンスサービスは、経験値が必要である。地域資料に当たり、地域の人々のニーズに応じていくことを通して、司書のスキルも厚みを増していくものと考ええる。

逆に言えば、図書館にはレファレンスサービスがある、という認知度が地域の中でまだまだ低く、我々ももっとこのサービスについてアピールしていかなくてはならない。

繰り返しになるが、職員にとっても、地域の人からレファレンスサービスを通して育ててもらい、ということが、極めて重要となる。

(委員) 今は学校に司書の先生が在籍しているのか。

(委員) 司書の資格を持っている先生方は、担任をしている。地域コーディネーターとして配置されている方々は、ほとんど資格は持っていない。

ただ、その方達も、長い人は図書館に5年位勤務しているので、自校の図書を把握しており、児童からの問い合わせにもすぐに案内できるようになっているのでありがたい。昨年度大幅な異動があり、1年間は大変だったが、現在は十分に力を発揮してもらっている。

(委員) 学校には司書の先生を配置することになっているのか。

(委員) ある程度の規模の学校には配置することとなっている。

(館長) 12学級以上の学校には司書教諭を配置する、とされている。国のねらいとしては、司書教諭は学級担任をせず、図書館専任としたいのだが、実際はそこまでいっていない。

(委員) そういった立場になりたいと、資格を取った先生は大勢いる。

(委員) その方々に図書館の勤務をお願いする、ということもできるのではないかと。

(委員) 退職すれば、可能性はあると思う。

(委員) 司書教諭の方を将来図書館スタッフとしてお願いできるとすれば、本が好きな方々だし、大変いいと思う。

(事務局) そういった有資格者の方々が、いろいろな形で関わっていただければありがたい。

(委員) 本来は、正職員であれば一番いいのだけれど。

(社会教育課長) 正職員は4年位で、慣れた頃に人事異動がある。司書という役職や資格があるから業務ができる、ということではなく、仕事を通して業務を覚えていく、知識を蓄積していく、その結果プロになっていくのだと思う。

そういった意味では、私としては、これまでの嘱託職員、来年度からの一般職非常勤職員も、その人のやる気をもっとも重要ではないかと思っている。

また、これからの図書館は、図書館ボランティアの活用を考えていかなければ、正職員や他の職員だけでは切り回していけない時代になってきていると思う。図書館を支える人がいて、その人達がいとも図書館について考えてくれることが、結果的には図書館を豊かにしていくと考える。ボランティアの皆さんは様々な職種であり、多様な情報を持っている。職員より詳しい分野があったときは、問い合わせ等に的確に対応できるのではないかと考える。

確かに、この構想を実現するには、かなりのマンパワーが必要である。

(委員) 基本コンセプト内「育む図書館」の中で、「乳幼児施設や学校などとの連携を深めながら、子育て支援や青少年の読書活動を推進し」とあるが、今は学校の学習活動に対し、町立図書館から様々な本の提供や配送をしてもらっており、そのことについて記載されていない。「学習活動への支援、」という文言を、「子育て支援や」の後に入れていただきたい。学校への具体的な支援があることが見えてくればありがたい。

(事務局) 了解しました。

(委員長) 職員体制に戻るが、最低必要な人数は出せないか。

(館長) 今後レファレンス専用カウンターを設置することとなれば、最低でも現状の人数よりは1名増にしなければならない。また、郷土資料について、全国から問い合わせがきたり、直接来館される方もいるが、現状ではなかなか対応できていない。かつて在籍していた職員のように、在席していれば直ぐに答えられるという、専門的な知識を持った人がいないため、たくさんの郷土資料を抱えながらも、問い合わせいただいた方に適切な対応ができていないという部分もある。そう考えると、もう1名必要になる。

今後「誇れる図書館」づくりをしていくために、また、手持ちの古文書や郷土資料を公開していくためにも、そのような分野について専門的に取り組める職員がいたら良いと考える。

そのような意味では、職員体制はプラス2名、ということになる。

(委員長) 現在の人数は何名か。

(館長) 職員は5名だが、正職員は係長と主任の2名で、あとの職員は勤務に時間的な制約がある。開館時間中ずっと通して勤務できる訳ではないので、その部分をカバーする体制が必要となる。周辺の酒田市や鶴岡市でも、勤務体制が大変な中、正職員と非常勤職員がローテーションを組み合わせながら運営しており、当館だけの課題ではない。

(委員) 非常勤嘱託職員は1年間だけの勤務なのか。

(館長) 3年まで延長可能である。しかし、嘱託職員制度自体がなくなる。

(委員) 来年度からの一般職非常勤職員は何年でも勤務可能なのか。

(事務局) 1年雇用だが、3年間まで更新可能であり、その後はまた選考を受けて切り替えとなると聞いている。

(社会教育課長) そのような不安定な体制の中、図書館のレファレンスサービスをどう展開していくか。

また、郷土資料についても、よほどの知見があり、且つ好きでなくては覚えられない分野なので、職員対応については難しいと感じている。

(館長) 郷土資料は、専門的な知見を持ち、経験豊富な人でなくては対応できない。自分の調査研究

を進めながら、レファレンスにも対応してもらえたら最適だと考える。

(委員長) 職員またはボランティア、ということではなく、その間の立場のような人、ということになるのだろうか。

(館長) 鶴岡市立図書館にある郷土資料館には職員がいるが、そのような方が当館にもいれば、図書館を利用して色々なことを調べたいという方、或いは知識を与えてくれる方の利用が随分増えると思うし、レファレンス機能はかなり強化できる。

(委員) 図書館としてのレファレンスを強調しようと思うと、これから導入される制度はかなり厳しいものになる。

(館長) 優秀な人に応募していただき、採用できるかどうか、ということにかかってくるかと思う。

(委員) 正職員は、一般職であれば司書によらず誰でも図書館に配属される可能性はある。そうなった場合、これから導入される一般職非常勤職員制度はかなり厳しいものとなり、レファレンスどころではなくてくることもある。図書館ならではの知恵を出していかないと、このまま押し流されてしまい、図書館の特色が削がれていくような気がして、大変危惧している。

(委員長) 職員体制を求めていくだけでなく、地域みんなで図書館をつくり上げていく、ということも必要となるのではないか。

(社会教育課長) レファレンスサービスを考えたとき、職員側も対応等をデータ化していくことが必要なのではないか。誰か、特定の職員がいないと分からない、というのではなく、不明な点はみんなで調べ、それを蓄積していく、ということが一番重要なのではないか。レファレンスサービスが止まってしまった、という訳にはいかない。職員みんなで共同作業していくこと、蓄積していくことが大事になる。

(館長) 現在も、問い合わせに対し回答した際には記録に残し、蓄積している。それを見れば、同様の問い合わせがあった場合に、他の職員でも対応できるようになっている。課長が指摘されたように、積み重ねていくことが大事だということを感じている。特定の職員がいなければ対応できない、ということではなく、どの職員でも対応できるという体制も、レファレンスの強化という意味では大事である。

(社会教育課長) 今はデジタル化の時代であり、用語検索をすればPCで対応できるようになってきている。この利用者は何を求めているのか、ということについて、ひとりの職員だけではなく、チームで対応していく、という考え方が必要である。

(委員) 役場の中に、古文書用語や要点を組み合わせれば、お客様がどんなことを要求しているのかが分かる、というシステムがあるのか。

(社会教育課長) Word や Excel の中にも検索機能はあるし、絞込み機能もある。

(委員) 図書館には、そういった機能は必要である。歴史資料についても、時代背景等細分化されたものを、PCを用いてつなぎ合わせていくようにしてはどうか。利用者側も、一から十まで教えてもらうより、細かな情報をピックアップした形で提供してもらい、つなぎ合わせるのは自分でしていく、それをまた別の場所でも勉強していく、という形を期待しているのではないか。

(館長) 基本構想にはPCコーナーと記載されているが、そのコーナーで、当館所蔵の古文書に関わる様々な資料を検索できるような環境をつくっていかなくてはならないし、DVDで資料が見れる、といった、アーカイブ化も進めなくてはならない。

(委員) 祭事や系譜等、少なくとも庄内町内の情報を積み重ねていけば、10年も経過すれば貴重な情報や資料となる。

(社会教育課長) 合併の際に「立川町 50 年の歩み」を発刊する作業に携わった。その際、過去の広報

や町史のどの部分に何が入っているのか、ある程度 Excel データに入ったものを活用しながら対応したが、大変便利だと感じた。

レファレンスとは、必要な人と必要なものを結びつける、といった役割ではないか。ひとりだけ、特化した能力をもった職員がいるのではなく、様々な情報の積み重ねが大事である。

(委員) 図書館でも、今、課長が言ったような機能をもっと拡張していけばいいのではないかと思う。

(館長) 施設面の耐震はある、ということで、今後仮に増築、となった場合、現在課題となっているような部分をどう改善していくか。特に、閉架書庫の改修は必要である。閉架書庫も時折雨漏りしているような状態であり、それはすぐに対応するとしても、今後どうバックヤードを活用していくのが課題である。

(委員) 雨漏り対策の方法としては、コストの問題はあるが、記念館との接合部分を含め、全体に大きな屋根を被せることはできる。

(館長) 2 階吹き抜け部分については、透明の樹脂素材のものを張り、漏音しないように配慮する必要がある。

(委員) 雨漏り対策については、雨や雪をしのげるような、斜めの庇のような形状のもので全体を覆い被せればよいと考える。

(委員) 新しい図書館は 1,500 m²ほど、ということだが、現在の建物で使用可能な部分を全部書庫にし、新しい方に開架スペースを集約する、ということではどうか。

(委員) 仮に 1,000 m² となった場合は、残りは 300 m² しかなく狭くはないか。

(館長) 市立米沢図書館のような開架書庫だったらいいかもしれないが、確かにそうなった場合は狭い。

(委員) 米沢の図書館は、地震がきた場合開架書庫はどうなるのか。

(事務局) 開館した以上、書架等の耐震対策はしてあるはずである。最近、内陸地方を中心に、新しい図書館が開館されており、特に注目されているのは、やはり市立米沢図書館と、東根市立図書館である。

(委員) 東根の図書館をHPで見たら、長方形の平面を、仕切りなしで活用しているようである。

(館長) 増築にしても、拡張部分に開架スペースを持っていけば、現在の一般閲覧室・子ども読書室は空く。そこは、多目的室等への利用を考えている。拡張部分は一般開架や閲覧室とする。つまり、現在のホールを拡大し、そこに本棚が広がっているようなイメージである。今、目の届かない状況にある一般閲覧室等を、どういうふうに使っていくかが課題である。

(社会教育課長) オープンスペースの部分と、部屋として仕切って使わなくてはならない部分と両方出てくる。そのあたりは、今後設計業者が考えていくと思うし、方向性が見えてきて、協議が必要な展開となれば、来年度前半には是非検討をお願いしたい。

また、本日は基本構想(案)ということで提示させていただいたが、今回だけで決定ではなく、次回2月の協議会の際まで検討していただき、更に議論を重ねていただきたい。

(委員) 前の広報しようないで、図書館も新しくなると出ていなかったか。

(事務局) 新庁舎関連の特集で、広報しようないの 2016.9.20 号の記事だと思う。その中で、図書館は新庁舎と「みんなのみち」でつながるイメージ図が掲載されており、「公共エリアとしての一体的な風景づくりを目指す」と記載されている。

(委員) 一般町民は、図書館も新しくなると受け止めるだろう。

(委員) 読み取り的には、大分期待させてしまったのではないかと思う。

(委員) 大変具体的な話にまでようやく到達した、ということではないか。いろいろな問題があったとしても、それらをクリアして、夢のある図書館づくりをしていくことが、我々委員も必要かと思う。

ただ、個人的には新築は難しいのではないかと考えている。
(委員長) いずれにしても、今回準備してもらった基本構想は必要なものは含んでいるのではないかと。
(事務局) 本日は、協議会委員の方々に、補足説明をしながら新たな図書館をイメージ化していただく、
という機会になればと思う。

(3)その他

事務局からの提案はなし

6 その他

次回は年間事業計画では2/23(木)を予定している旨、確認。

7 閉会：主任